

午後3時 47 分再開

○議長(森山健一) それでは、会議を再開いたします。

引き続き、一般質問を行います。

中島議員。

〔中島謙二議員登壇、拍手〕

○中島謙二議員 自民党議員連盟の中島謙二でございます。県会議員として2年目を迎えますが、まだまだふなれであり、先輩議員の方々、そして執行部の皆さん、今後も御指導賜りますようどうぞよろしくお願いを申し上げます。

それでは、まずふるさと納税制度についてであります。

この制度は、地方の格差がクローズアップされる中で、厳しい財政状況にある地方自治体の格差是正を推進するために生まれたものであります。この制度について、当初は受益者負担の原則に基づく我が国の税体系の基本から逸脱するものである等の反対意見も数多くありましたが、最終的には自治体への寄附金に対する所得税や住民税の控除制度の拡充という形で決着をし、4月30日の地方税法改正案の成立により日の目を見たものであります。

本県におきましても2月議会でふるさと島根寄附条例が制定され、産業の振興や医療、福祉の充実など8つの事業に充てることとされました。この制度による寄附金が当初の目的であります地方の格差を是正するほどの財源として期待できるものではなく、自治体の財源確保のためにはやはり地方交付税を増額すべきであります。しかし、この制度は地方で生まれ、その後成長し、ふるさとを離れたその地方の出身者がふるさと納税という形でふるさとの発展に貢献し、ふるさととのきずなを維持できるという点で大変意義深い制度であると考えられます。東京や大阪で暮らす数多くの本県出身者の方々に、ふるさと島根とのきずなを大切にいただき、ふるさとの発展のためにふるさと納税をしていただくよう積極的にPRしておく必要があると思っております。

既に、他県においては納税した人に特産品を送るなどの取り組みを始めたところもあり、また本庁や県外事務所に専従の職員を配置して積極的な獲得活動を展開している県もあります。したがって、本県もこうした動きに乗りおくれることなく、ふるさと納税寄附獲得のための積極的な対応が求められるのではないかと考えます。

そこで、まず知事にお伺いします。

検討段階では、我が国の税体系の基本に反するとの批判のあったこの制度ですが、道路特定財源問題の影響で十分な議論のないまま制度ができ上がってしまった感がありますが、

今こうして実際に制度がスタートした時点で知事としてどのようにこの制度をとらえ、どのように評価されるのでしょうか。

また、本県も他県におくれることなく積極的な対応をすべきと考えますが、今後の本県の取り組みについてお伺いをいたします。

また、このふるさと納税制度には、先ほど申しましたように十分な議論のないままスタートしたため、県内の居住者が自分の居住地と違う県内の出身市町村へ寄附を行った場合、居住地の市町村の住民税に加え県の住民税も控除となり、県の税収が減収となるという大きな問題点があります。そのため、鹿児島県では一括して県で寄附金を受け、県に4割、市町村に6割を配分する方式を採用し、市町村分については特定の市町村が指定されていればその市町村に6割分全額が、指定されていなければ全市町村に人口割等により配分することです。もちろん、市町村に直接寄附することもできますけれども、県内在住者からの寄附についての一つの考え方で、場合によってはこうした方式を導入する必要もあるのではないかと考えますが、県のお考えはいかがでしょうか。

次に、齲蝕予防のための弗素入り歯磨き粉及び弗素塗布とともに、弗化物の局所応用の一つでございます弗化物洗口についてであります。

全国一の高齢県である本県では、元気に長生きを目標に健康長寿しまねの推進に取り組んでいますが、その実現のためには歯科保健対策が必要不可欠であります。食物の摂取、そしゃく等については歯が極めて重要な役割を果たしており、歯の健康を維持することは健康で長生きするための第一歩であると同時に、大変重要なことでもあります。このため、県では8020運動の達成を目指して県民運動が広く展開されているところであります。

しかし、昨今の生活環境の悪化、特に食生活の乱れは人々の口腔機能に大変大きな影響を及ぼし、そのためこのままではいつまでも自分の歯で食べるため、80歳で自分の歯を20本残そうという島根県の8020運動の達成が非常に困難な状況にあります。実際に、ある調査では本県の歯の残存率については全国平均よりも悪いとの結果が出ていることから、本県においては今のうちに強力に歯科保健対策を推進し、将来の8020達成に向け若年者からの虫歯予防に積極的に取り組む必要があると思っております。

食物を摂取するという行為は、人が生まれ自分で食物をとるようになってから死に至るまで毎日行われるものであります。ということは、生まれてから死ぬまで一生涯虫歯に罹患する可能性があり、虫歯予防は子供から大人、高齢者に至るすべてのライフステージにおいて、その対策を進める必要があります。とりわけ、人は幼少の段階で基本的な生活習慣を身につけるわけですから、子供の段階での虫歯予防の習慣づけが大変重要であります。

虫歯予防には、従来からの毎食後の歯磨きを行い、甘いものをとらないことに加え、歯の萌出直後できるだけ早い時期に歯の表面に弗素を作用させることが非常に有効であります。これは、歯の表面に弗素を作用させることにより、歯の成熟現象を促進し、早期に結晶を丈夫にし、また歯の再石灰化を促進し、エナメル質の結晶が修復され、さらには弗素が直接エ

